



# KICK OFF 通信



## カジノ是か非か Part II ギャンブル依存症編

### ◆際限ない一獲千金の夢

依存症とは「分かってはいるけれど、止められない」。最初は軽い気持ちで手を出すのですが、偶然にも的中して大金を獲得できた、その快感が忘れられずに、何度も足を運んで、のめり込んでいきます。やがては行為そのものが快感となり、勝っても負けても興奮するようになってしまいます。

単に性格が弱いからではありません。依存症は、列記とした病気、行動障害の1つなのです。ギャンブル依存症の最大の問題点は借金とウソの繰り返し。家族を巻き込み、ヤミ金にも手を出し、失業、家庭崩壊、犯罪につながる危険性を持ち、最終的には、何もかも失ってしまいます。

### ◆ギャンブル依存症対策

既にカジノを設置した都市において、様々な団体が依存症対策に取り組んでおります。①依存者の早期発見による防止努力、②ギャン

ブルリスクの教育・啓発活動、③カウンセリングによる回復支援、等が主な柱と言えましょうか……。勿論、入場制限とか、ATMの設置禁止とか、損失の上限設定とか、依存者を出さないような水際作戦も散見されます。

今後、我が国でも、カジノからの税収によって依存症対策を展開していくとあります。しかし前号で触れたように、カジノ収益の大半がギャンブル依存者に依拠している実態からして、この考え方は本末転倒と言えるのではないのでしょうか。

### ◆自己責任では済まされない依存症問題

仮に横浜のような大都市にカジノを誘致した場合には、365日24時間休みなく営業が続けられ、掛け金額の上限もなく、誰もがいつでも勝利の快感を味わえるギャンブルとなります。これは開催日数や回数等で左右される競馬・競輪・競艇や、営業時間など

に、一定の制限のあるパチンコと比較しても、依存症のリスクは格段に大きくなります。

そもそもカジノは胴元が儲かなければならないビジネスですので、ギャンブラーが賭けを繰り返せば繰り返すほど、確実に胴元の収益に繋がっていきます。すなわちこれは、意図的にギャンブラーを陶酔状態に陥れることによって、高収益を上げる事業なのです。

また多くの事例から見ても、カジノ施設ができれば、その周辺住民のギャンブル依存者が増大します。そして、カジノの開設は周辺地域の犯罪を誘発し、治安の悪化を招くこととなります。こうしたギャンブル依存症対策や治安対策による社会的コストが、地域社会に集中的に転嫁されてしまうのです。

したがって、負の影響を受けるのは、地域住民であり、対策費用は税金で賄うこととなります。こうした観点から、カジノによる地域振興は幻想でしかないと言わざるを得ません。

### 【プロフィール】

水口まさつと

昭和37年

7月28日生まれ

神奈川県立湘南高校・慶応義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…

平成 4年

「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格

と平成 7年

県議会議員初当選～平成19年まで連続3期

平成19年

第21回 参議院議員選挙 当選

平成26年

予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

第47回 衆議院議員選挙 当選

維新の党・税制調査会事務局長

平成28年

総務委員会&沖縄・北方領土特別委員会 両理事

平成29年

民進党結成に参画

国土交通委員会ならびに厚生労働委員会委員

民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長

衆議院議員 / 神奈川5区(戸塚・泉・瀬谷)総支部長